

資本注入政策のキャピタル・クランチ促進効果

長田 健

〈要 旨〉

金融機能安定化法と早期健全化法による資本注入政策のキャピタル・クランチに対する効果の検証を行った。邦銀のパネル財務データを用いたダイナミック・パネル分析により国際基準行と国内基準行それぞれの貸出行動と資本注入政策の関係を実証的に分析した。資本注入政策の目的の1つにキャピタル・クランチの抑制があるが、その抑制効果は限定的なものであった。むしろキャピタル・クランチ促進効果があることが明らかになり、資本注入をうけた銀行の貸出行動はより自己資本比率に制約され、貸出を減らしたことが分かった。金融機能安定化法と早期健全化法の性質の違いや、国際基準行と国内基準行に対する金融庁の監督体制の違いを比較することで、資本注入政策の枠組みや注入後の監督体制の違いが抑制・促進の違いをもたらした原因であると分析する。資本注入政策が抱える潜在的な負の影響を理解した上で、資本注入政策の執行方法、銀行監督の在り方に関する議論を深める必要がある。

© Japan Society of Monetary Economics 2010